

CAMD 報告会

(Center for Development of Advanced Medicine for Dementia)

認知症の救急医療の課題解決に向けた研究

先進医療データ管理室

武田 章敬 室長

平成29年6月8日(木) 16時00分～
第1研究棟2階大会議室

認知症の人やその家族が住み慣れた地域で安心して生活を継続するためには、認知症の人が肺炎や骨折などの急な身体疾患に罹患した場合に適切な医療サービスが受けられることが重要である。

平成28年度診療報酬改定において「認知症ケア加算」の創設等、一般病院における認知症の身体疾患への対応が初めて評価されることとなった。これまで評価されていなかった一般病院における認知症ケアが評価されることは、これまで認知症の人の身体疾患の受け入れに消極的であった病院であっても受け入れが促進される可能性があり、認知症の人や家族にとっても、病院にとっても喜ばしいことと思われる。一方で、認知症のある人にはより自己負担も大きくなるという面もあり、病院には、より質が高く、安全な認知症ケアの提供が求められる。

本報告会では「病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修」の教材改訂の試みと実際に試用してみたの効果、当院における認知症ケア、転倒予防等の取り組みにつき報告する。

また、日本医療研究開発機構長寿・障害総合研究事業 認知症研究開発事業「適時適切な医療・ケアを目指した、認知症の人等の全国的な情報登録・追跡を行う研究」の分担研究として行っている認知症ケアレジストリについても現状報告を行う。